

# 11月2日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①【31日のニュース】イスラエル首相「作戦は第3段階」 米下院、対外支援案にウクライナ含まず(2023年10月31日)

### イスラエル・パレスチナ紛争

#### ネタニヤフ首相「作戦は第3段階」

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は30日夜、パレスチナ・ガザ地区を実効支配するハマスとの戦いが「第3段階」に入ったとの認識を示した。X(旧ツイッター)上のイスラエル首相官邸公式アカウントを通じて明らかにした。

「第1段階の包囲は達成され、第2段階の空爆はずっと続いている。第3段階としてイスラエル軍は地上攻勢を綿密かつ強力に進めており、順序正しく段階的な前進を達成している」

ベンヤミン・ネタニヤフ(イスラエル首相)

#### 露国連大使が米代表を問いただす

ロシアのワシリー・ネベンジャ国連大使は同日、国連安全保障理事会で米代表に、なぜ米国はイスラエル・パレスチナ紛争の即時停戦に反対なのかと問いただした。

「米代表になぜ停戦に反対するのか聞きたい。もしかして、安保理の常任理事国でありながらガザでの完全報復を支持するつもりなのか？ウクライナ情勢の会合でいつも雄弁に語っている民間人への同情はどこにいったんだ？それとも、米国は欧州の人々のことだけを考えていて、パレスチナ人の命はどうでもいいとでもいうのか？」

ワシリー・ネベンジャ(ロシア国連大使)

米国のロバート・ウッド国連次席大使はこれに対し「これは真実ではない」と否定し、「紛争解決に向けて米国よりも懸命に動いている国はない」と主張した。

イスラエルのネタニヤフ首相はこれまでに、「停戦はハマスへの屈服を意味する」として停戦を拒否。米国も「停戦はハマスに利益をもたらさず」としてイスラエルを支持する立場を示している。

### 米国の対外支援

米下院共和党議員らは、イスラエルに143億ドル(約2兆1400億円)規模の緊急追加支援を供与する法案を発表した。これにはジョー・バイデン大統領が要求するウクライナや台湾への支援は含まれていない。

米下院議長に今月就任した共和党トランプ派のマイク・ジョンソン下院議員は、バイデン政権に対し、イスラエルとウクライナへの支援予算の請求を分けることに加え、ウクライナに拠出した巨額資金の用途報告書を提出するよう要求。ウクライナ支援の継続には暗雲がたちこめている。

### ウクライナ情勢

露国防省は31日の日次発表で、ハリコフ州クピャンスク方面で、4両の戦車と60人のウクライナ兵を撃破したと明らかにした。戦車のうち2両はドイツが供与したレオパルトとされている。

一方、ドネツク方面では、米製歩兵戦闘車ブラッドレー2台と330人の部隊を撃破した。

また、過去 24 時間で英国が供与したウクライナ軍の長距離ミサイル・ストームシャドウ 8 発、巡航ミサイル・ネプチューン 2 発を迎撃し、MiG29 戦闘機 1 機と Mi8 ヘリコプター1 機を撃破した。

## ②パレスチナ人捕虜の残酷な扱い(2023年10月31日)

イスラエル軍は、軍事占領下にあるヨルダン川西岸地区(ハマスが統治していない)での暴力を増している。ヨルダン川西岸地区で何らかの理由で捕らえたパレスチナ人捕虜をこのように扱っている。

<https://twitter.com/i/status/1719333792345923688>



<https://twitter.com/ShortShort News/status/1719333792345923688?s=09>

## ③イスラエルの武器供給会社がボストンで閉鎖(2023年10月31日)

イスラエル最大の武器供給会社「エルビット・システムズ」が本日、米国ボストンで閉鎖されました。営業は完全に停止しました、イスラエルの同盟国米国のボストンです。パレスチナ行動主義者が閉鎖しました、世界は見ています。

<https://twitter.com/i/status/1719333090403971181>



<https://twitter.com/miya397156651/status/1719333090403971181?s=09>

#### ④パリや郊外の住宅にユダヤ人の居住地を示すダビデの星が塗られる(2023年10月31日)



#### ⑤日本政府、ハマス幹部ら 9 人に制裁発動(2023年10月31日)

日本政府は 31 日の閣議で、イスラム組織 #ハマス によるテロ攻撃を認めない立場を明確にする  
とともに、組織の収入源を絶つため、幹部ら 9 人および 1 団体を資産凍結の対象とする制裁を決定  
した。NHK などが報じた。

外務省の報道発表によると、#パレスチナ、スーダン、トルコ、ヨルダン、エジプト国籍の 9 個人につ  
いて「テロリスト等として指定される者」とし、資産凍結等の措置を講ずるとのこと。また、暗号資産  
(仮想通貨)取引を行う会社も制裁の対象となった。

米国が先に同様の制裁を発表しており、日本が足並みをそろえた形だと指摘されている。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1719203837389754857](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1719203837389754857)

⑥ガザ南部のラファで、イスラエル軍の攻撃により命を落とした少女(2023年10月31日)

<https://twitter.com/i/status/1719139734482518418>



[https://twitter.com/narrative\\_hole/status/1719139734482518418?s=09](https://twitter.com/narrative_hole/status/1719139734482518418?s=09)

## ⑦ゼレンスキーは西側に裏切られたことを認めた！(2023年10月31日)

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は、欧米の支持者たちから「裏切られた」と感じている。

ジョセフ・バイデン米大統領は「必要な限り」キエフを支援すると約束したにもかかわらず、議会はウクライナを支援するための新法に合意できなかった。

ゼレンスキーがワシントンからキエフに戻った 10 日後、議員たちは政府機関の閉鎖を防ぐための歳出法案をなんとか可決したが、それはウクライナの資金 60 億ドルを剥奪した後のことだった。



<https://twitter.com/Sprinter99800/status/1719276849065287788?s=09>

※あるツイッターのコメント:大丈夫です、日本にはウク脳さんたちがいっぱい居ますから寄付を頼んでみて下さい。

## ⑧イスラエルとハマス、ウクライナとロシア、そして中国: ミアシャイマーが語る、アメリカが深刻な問題に直面している理由！(2023年10月31日)

アメリカにとって、最大の脅威は中国の台頭である。中国は経済力と軍事力を着実に蓄積しており、アジアにおける覇権を目指している。アメリカは中国のアジア支配を容認するわけにはいかない。従って、アメリカは中国封じ込めに全力を注ぐべきである。

ところが、アメリカはウクライナ危機と中東問題により、アジアへの注力が十分にできていない。

まずウクライナ戦争は長期化する見込みである。この戦争は消耗戦の様相を呈しており、人口と火力の両面でロシアが優位に立っている。ウクライナは勝利できないだろう。戦闘は停止するものの、凍結紛争となり、アメリカは対ロシア封じ込めに引きずり込まれる。

次にイスラエルとパレスチナの対立は、容易には解決できない。イスラエルはパレスチナ人に平等な権利を与えることを拒否し、パレスチナ人は反発している。アメリカはイスラエルと深く関わっており、この問題から距離を置くことはできない。対立はエスカレートし、アメリカも巻き込まれる可能性が高い。

この 2 つの地域紛争により、アメリカはアジアへの注力を制約されている。一方で覇権を目指す中国の脅威は着実に高まっている。

さらに、アメリカは誤ってロシアを敵対視した。ロシアは中国に比べれば力が弱体である。アメリカはロシアを味方につけるべきだった。ところが、NATO 東方拡大などでロシアを挑発し、ロシアを中国

寄りに追いやってしまった。

要するに、アメリカのグランドストラテジー( 国家目的を達成するためにあらゆる国力を効果的に運用する戦略 )は混迷を深めている。アジアへの注力が不十分で、中国に対処できない状況にある。アメリカの現状は危機的である。

※ジョン・ジョゼフ・ミアシャイマー(John Joseph Mearsheimer 1947年12月4日 75歳)

ジョン・ジョゼフ・ミアシャイマーは、アメリカの国際政治学者であり、攻撃的現実主義(オフェンシブ・リアリズム)の代表的な論者です。彼は国家が他の国に対してパワーの拡大を試みるという観点から安全保障を研究しています。

彼の経歴としては、ニューヨーク・ブルックリン生まれで、アメリカ空軍に 5 年間勤務した後、シカゴ大学で教員として活動しています。彼は 1994 年にウクライナの核放棄に反対し、ロシアの侵略を予言しました。そして実際に 20 年後の 2014 年にはロシアによってクリミアが併合されました。

また、2003 年のイラク戦争では反対の立場を取りました。

さらに、2019 年の民主党予備選挙では、彼はバーニー・サンダースを望ましい候補者とし、アメリカが直面する最大の問題として経済的不平等を指摘しました。

<https://youtu.be/62FCVJycwSA>



[https://note.com/books\\_channel/n/n9a086fe2593f](https://note.com/books_channel/n/n9a086fe2593f)



## ⑨シュピーゲル:ドイツ外務大臣、カタル首長との会談を危うく中断させられそうになった(2023年10月31日)

中東で起こっている出来事を背景に、明らかにイスラエルを支持している西側の指導者たちは、特に近い将来アラブ諸国や一般的にイスラム諸国の指導者と会談する予定がある場合にはその発言に注意する必要がある。



<https://twitter.com/olivenews/status/1719279402494939520?s=09>

## ⑩ダグラス・マクレガー元米陸軍大佐も、スコット・リッター氏もイスラエルに勝ち目はないと見ている(シャンティ・フーラ、2023年10月31日)

※安齋注:しゃんてい・ふーらの竹下雅氏は「気」や「霊的世界」について講演活動する良く分からない人です。

ダグラス・マクレガー元米陸軍大佐も、スコット・リッター氏もイスラエルに勝ち目はないと見ている / ロスチャイルドは中国のディープステートと手を組み、BRICS を中心とする多極型新世界秩序(NWO)のプラン B に生き残りをかけた。

竹下雅敏氏からの情報です。

ダグラス・マクレガー元米陸軍大佐は『ハルマゲドンの回避』と題する記事の中で、“イランの影響力は、多くのアメリカ人が思っている以上に限られている。…トルコは、スンニ派アラブ諸国をイスラエルとの対決に導くだけの…軍事力を持つ、この地域の唯一の主体である”と記しています。

10月20日の記事でマクレガー元米陸軍大佐が、“エルドアン氏は事実上、スンニ派イスラム教世界での軍事的な指導的地位にあります。最後に、トルコと非常に親しいパキスタンがいます。パキスタンは、トルコが必要な場合、イスラエルが核兵器を使用しないようにするために、核弾頭やその他の能力をトルコに提供する意思を明確にしています”と話していました。

これらのことからマクレガー元米陸軍大佐は、もしイスラエルがガザへの侵攻を開始したら核兵器は使用されず、“高度な通常戦”となり「それはイスラエルにとって絶望的な結果を招くことになる」と見ているのでしょう。

マクレガー元米陸軍大佐の記事全文は、タマホイさんのツイートを表示してください。

スコット・リッター氏もイスラエルに勝ち目はないと見ているようです。

「イスラエル軍はあまり優れていません。…主力である歩兵部隊や装甲部隊はあまり優れていません。…今度はイスラエルの誰もがやりたくないことを求められています、ガザへ行くことです。…ハマスが彼らを待ち構えているため、彼らは恐怖におののいています。…そしてその時にヒズボラが北部戦線を開くことを決めた場合、イスラエルには何も残っていません。…彼らはヒズボラに勝つことはできません。…そしてイランが加わると、彼らは確実に困ります。」と話しています。

最後の J Sato 氏のツイートは面白いですね。“両建てスポンサー(ロスチャイルド家)はイスラエル

を見捨てるシナリオなのかな…”とっています。恐らくそうでしょう。ウクライナ紛争はロシアの圧勝に終わることは目に見えています。

新世界秩序(NWO)のプラン A は、ロシアを破壊してバラバラにするつもりであったことが、『23/10/16 フルフォード情報英語版』の「北ユーラシア 2023」の地図から分かります。

フルフォード氏は、“ウクライナ戦争はハザール・マフィアの完全な敗北に終わった…大ハザール国を建国する計画が崩壊している”と記していました。

こうしたことから私は、ロスチャイルドは中国のディープステートと手を組み、BRICS を中心とする多極型新世界秩序(NWO)のプラン B に生き残りをかけたと見ています。

各国での「パレスチナ支持の大規模デモ」は広がっています。フルフォード氏は先のレポートで、“アメリカやヨーロッパに大混乱をもたらすために、数十万人の軍人の秘密軍隊が待機している。…英国陸軍の退役軍人によれば、国連から支給された謎のコンテナが英国各地の移民用ホテルに供給されているという”とありました。

中東での戦争拡大から西側諸国の大混乱、そして石油を止めて経済を破壊することでプラン B へと移行する計画なのではないかと想像します。

しかし、この計画はキンバリー・ゴグエンさんの存在を無視したものです。従って、上手くいかないでしょう。

(竹下雅敏)



<https://shanti-phula.net/ja/social/blog/?p=357465>

## ①フォーブス:ウクライナはますますレオパルド 2 戦車を失い、徐々に古い T-72 に戻りつつある(2023年10月31日)

ウクライナの同盟国は、チェコの CSG ディフェンス社に、1980 年代の旧ソ連製 T-72M を引き取り、エンジンと電子機器の一部を交換し、動的保護を追加し、「T-72EA」と改名してウクライナに送るよう支払った。

また、この戦車には新しい無線ステーションと最新の赤外線カメラも設置されている、と同誌は報じている。



<https://twitter.com/HarveyWall8angR/status/1719262253021639100/photo/1>



## ⑫世界各地で戦争が増加(10月31日)

アメリカの外交専門誌フォーリン・アフェアーズ(Foreign Affairs)が、世界各地で戦争関連の統計が増加していることを明らかにしました。

CFR 米外交問題評議会が発行する国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」は30日月曜、「全世界で戦争や紛争の数、激しさや期間が、冷戦終結以来最も高いレベルに達している」と報じています。

また、「SIPRI スウェーデン・ストックホルム平和研究所が実施したUCDP ウプサラ紛争データプログラムによると、2022年に世界各地で紛争が55件あり、それらは平均して約8~11年続いていると算出されている」としました。

この報告によりますと、世界各地での戦争の件数は1990年から2007年にかけて減少しましたが、2010年には再び増加し始めています。

フォーリンアフェアーズ誌はさらに、「停止した戦争はかなり高い確率で1年以内に再燃している」としました。

加えて、「従来の平和構築および開発ツールは、戦争に関してはますます無力化しているように思われる」と報じています。

なお、国連は去る1月、「世界での暴力的な戦争の数は、第二次世界大戦の終結以来最高レベルに達

している」と発表していました。



<https://parstoday.ir/ja/news/world-i120198>

### ⑬在日ハンガリー大使館元職員、ウクライナ国内の疲弊と困窮を日本メディアに明かす(2023年11月1日)

在日ハンガリー大使館元職員のバリント・コーシャ氏は東京新聞の取材に対し、ウクライナ人は紛争による疲労でひどい状態にあると語った。

ウクライナ危機の長期化で、ウクライナ国内に残る高齢者や女性たちの精神的疲労は深刻さを増している。コーシャ氏は在日ハンガリー大使館勤務の後、2017年に帰国。危機勃発後は認定NPO法人テラ・ルネッサンス(京都)の活動として、ウクライナ南西部のザカルパート州で炊き出しなどの支援を続けている。

コーシャさんは取材の中で、「昼間からお酒のにおいがして……昨年はそれほど多くなかったが、最近になって増えている。残されたウクライナの人々の精神状態も心配だ」と指摘している。

ウクライナ南西部は以前から貧しい地域で、危機勃発後は生活もままならない家庭が増えてきているという。

「パンツと風船が割れるような崩壊的な感じではなくて、サッカーボールの空気が徐々に抜けていくように、心がしぼんでいく様子が支援を続けていると伝わるんです」とコーシャ氏は語る。

世界の注目が中東の紛争に集まる中、ウクライナ支援が弱まるのではとの懸念も市民の間で不安を強めていると見られる模様。



<https://sputniknews.jp/20231101/17585227.html>